

## 実践報告

学年	教材	検討内容
6年 名張 H教諭	学級開き  授業開き 「詩を 楽しもう」	子どもの行動を褒め、価値づけることは大切なことだが、子どもの「行動」に対して褒めるのではなく、行動の「内面」を褒めることの方がさらに大切である。音読ではなく、“朗読”にねらいを置き、一人ひとり自分なりの解釈を持って朗読にチャレンジさせた。友達の朗読を聴いて、友達がどんな思いを込めて読んでいるのかをしっかりと感じ取らせた。子どもたちは他者意識を持って、友達の朗読を聴いていた。子どもに負荷をかけることは大切である。自分なりの解釈を持って朗読することは、着眼点が一それぞれ異なるため、みんなで1つの解釈を持って朗読したい。
1年 名張 I教諭	授業開き 国語 詩 「いいんき」	“「国語」の勉強ではどんなことを勉強するのか”では、文字を学習するだけでなく、自分の思いや考えを話したり、友達の話を聞いたりすることも伝えたい。「いいんき」の「いい」や、「さあいこう」「とびだそう」「ね(わくわくするね・たのしいね)」はどのように読むといいか、1つ1つの言葉に着目して、読み方を考えさせた方がいい。挿絵の読み取りでは、「やま」や「まち」のような言葉に着目した子がいても、その言葉を読めたことを評価するのではなく、ねらいを明確にして評価し、それが達成できたら、また新しいねらいをつくっていくことが大切である。
4年 四日市 I教諭	授業開き 国語 詩「水平線」	子どもから「水平線って何？」等と、分からないことを進んで発言する姿があり、学ぶ意欲のある子どもの姿がたくさん見られた。「水平線」について絵で提示したことは良かったが、空と海の境界線をもう少し細かく分けて答えを選択させたり、「線」とはどういうことか”考えさせたりしてもいい。
5年 桑名 A教諭	授業開き  国語 詩 「かんがえる のって おもしろい」	“アクティブ音読”にチャレンジさせた。主体的に音読をする子の姿が見られたが、一方で雑に音読をする子の姿も見られた。アクティブ音読は、主体性を養うきっかけにはなるかもしれないが、それを活かして、子どもたちの中で対話や討論が積極的にできるようにしていくことが大切である。 詩を読んで疑問に思ったことを聞くと、子どもたちからいくつか問題が出てきた。「みえてき〇」や「かくれて〇」の「て」に着目し、「て」が原因や結果を表す言葉であることを押さえ、『なぜ「そらのあおさがふかくなる」のか?』『なぜ「まえよりもっとすきになる」のか?』を考えさせてもよいか。子どもたちから出てきた問題を全部取り上げる必要はなく、問題を作る過程を大切にして、今後も子どもたちの「変だ、おかしい」という気付きから問題作りに取り組んでいくといい。
2年 鈴鹿 K教諭	国語 詩「ふきのとう」	学級映像
6年 津 T教諭	学級開き	学級映像
4年 名張 I教諭	図工 三原色で「パンジー」	画像